

(特集) 日本占領関係資料収集の歩み

はじめに

国立国会図書館は、1977年以降、日本占領関係資料の収集事業を進めてきた。米国国立公文書館が所蔵する「連合軍最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）文書」収集のために、1978年度予算に特殊文書関係資料整備費が計上されたことで事業を本格的に開始し、現在も当館職員を現地に駐在させて資料の収集にあたっている。また、収集した資料の利用提供を行うため、1979年に現代政治史資料室を開室、1987年からは憲政資料室にて資料を公開し、現在はデジタル化・インターネット公開を進めている。

これまで収集した資料のうち2つの柱となるコレクションは、米国国立公文書館が所蔵するGHQ/SCAPをはじめとする占領軍に関する資料及び占領期の検閲出版物のコレクションである米国メリーランド大学図書館所蔵のゴードン・W. プランゲ文庫である。これらは数多くの論文に用いられるなど占領期研究、戦後史研究に寄与し、当収集事業は高く評価されてきた。

収集事業の開始から30年以上が経ち、現在の職員にとっては開始当時の様子がうかがい知れなくなっている。近來、収集事業の初期に携わった元職員との交流の中で、事務文書のみではわかりにくい事業開始の背景や現地での作業内容等を関係者の記憶から掘り起して、記録として残しておくことの重要性がわかってきた。そこで、利用者サービス部政治史料課職員を中心に当時の関係者を交えた研究会を開催することとした。また時を同じくして、巽由佳子プランゲ文庫室長が来館されるとともに、当時の状況を詳しく知る研究者からもお話しを伺う機会に恵まれた。本号では、これらの成果を合わせて掲載することとし、さらに事業の現状や周辺状況についても解説を加えた。

まず最初に、最近5年間の事業の概要報告として、2012年から2015年までワシントンに駐在した藤本守が、事業の概要や近年の収集内容について解説した。

続いて、2つの記事でGHQ/SCAP文書収集事業の開始当初について振り返る。事業の草創期に関わった元職員4人の聞き取りは、2013年12月と2014年6月の2回にわたり、政治史料課が実施した「占領期資料収集プロジェクト研究会—初期を中心に—」の記録である。また、2015年3月に天川

見横浜国立大学名誉教授を招き、主に1970年代の占領期研究の状況についてご講話いただいた際の記録を掲載した。これらを合わせることで、当時の研究者やマスコミの動向、それらが当館の収集事業に影響を与えた経緯などが浮かび上がってくる。

最後に、巽プランゲ文庫室長の講演録を掲載した。これは、2015年2月、巽室長を招へいして業務交流を行ったが、その一環として開催した研究会「プランゲ文庫の概要、現況、今後の方針」において、「プランゲ・ネットワーク」と題し、学内外との協力関係や、プランゲ文庫の資料を用いた研究状況についてお話いただいたものである。

以上4つの記事により、当館の収集事業の歴史的経緯のみならず、占領期研究の初期の動向、現在のプランゲ文庫資料の活用まで、日本占領関係資料をめぐる幅広い状況を概観することを目指した。本特集が今後の占領期研究の一助となるならば幸いである。

戦後70年を過ぎた現在でも、日本占領関係資料やプランゲ文庫の価値は色あせることなく、今後とも貴重な資料として研究に用いられ続けるであろう。また、米国国立公文書館を中心として、未だ手を付けられていない重要な資料も数多くあると予想される。当館の事業の対象としていくべき資料は、まだ多い。これからも、日本における占領期研究の基盤となるべく、積極的な収集・公開に努めていきたい。

なお、本特集の編集は、利用者サービス部堀内寛雄、同政治史料課鈴木宏宗、眞子ゆかり、成原貴彦、河合将彦が担当した。

日本占領関係資料収集年表

年 度	収 集 資 料	所 蔵 機 関
1978（昭和53） ～1991（平成3）	連合国軍最高司令官総司令部 （GHQ/SCAP）文書	米国国立公文書館 （ワシントン・ナショナル・レ コード・センター＝WNRC、 メリーランド州ストランド）
1992（平成4） ～1995（平成7）	プランゲ文庫（雑誌）	メリーランド大学 （メリーランド州カレッジパーク）
1992（平成4）	米国戦略爆撃調査団文書	米国国立公文書館
1992（平成4）	トルーマン大統領図書館所蔵 日本占領関係資料	トルーマン大統領図書館
1992（平成4）	アイゼンハワー大統領図書館 所蔵日本占領関係資料	アイゼンハワー大統領図書館
1993（平成5）	国際検察局文書	米国国立公文書館
1994（平成6）	マッカーサー記念館所蔵日本 占領関係資料	マッカーサー記念館 （バージニア州ノーフォーク）
1995（平成7） ～1997（平成9）	海兵隊歴史センター所蔵太平 洋戦争資料	海兵隊歴史センター （ワシントンD.C.）
1997（平成9） ～2003（平成15）	琉球列島米国民政府資料	米国国立公文書館※ （メリーランド州カレッジパーク）
1997（平成9） ～2002（平成14）	プランゲ文庫（新聞及び通信）	メリーランド大学
2003（平成15） ～2009（平成21）	米陸軍省高級副官部資料	米国国立公文書館
2005（平成17） ～2010（平成22）	プランゲ文庫（児童書）	メリーランド大学
2010（平成22）～	プランゲ文庫（一般図書）	メリーランド大学
2011（平成23）～	極東軍文書	米国国立公文書館
2012（平成24） ～2014（平成26）	内務省検閲発禁図書※※	米国議会図書館

※1993年に新館を建設し、1993年末から1996年にかけて資料移転を行った

※※2016年3月現在、公開準備中

歴代ワシントン駐在員一覧

期 間	氏 名
1978（昭和53）～1980（昭和55）年度	星 健一
1981（昭和56）～1983（昭和58）年度	千代 正明
1984（昭和59）～1985（昭和60）年度	枝松 栄
1986（昭和61）～1988（昭和63）年度	小川 元
1989（平成元）～1991（平成3）年度	星 健一
1992（平成4）～1995（平成7）年度	山田 邦夫
1996（平成8）～1997（平成9）年度	等 雄一郎
1998（平成10）～1999（平成11）年度	北川 知子
2000（平成12）～2002（平成14）年度	ローラー ミカ
2003（平成15）～2005（平成17）年度	秋山 勉
2006（平成18）～2008（平成20）年度	加藤 祐平
2009（平成21）～2011（平成23）年度	日向 智昭
2012（平成24）～2014（平成26）年度	藤本 守
2015（平成27）年度～	成原 貴彦

日本占領関係資料収集事業初期年表（1972～1986）

館外の動き	館内の動き
<p>1972.8 『日本占領文献目録』日本学術振興会編 刊行</p> <p>1972.11.3 竹前栄治、福島鑄郎、天川晃が占領史研究会を発足（1992.12.5解散） 「占領史研究会ニュース」の発行開始</p> <p>1974 <i>The Allied Occupation of Japan, 1945-1952: An Annotated Bibliography of Western-Language Materials.</i> R.E. Ward, F.J. Shulman 刊行</p> <p>1975.6～ 戦後30年特別企画「米政府極秘文書を発掘する」『サンケイ』6月24日以降23回連載（増井誠 記者）</p> <p>1976.11.10 「占領期の米極秘文書 入手進む」『朝日新聞』朝刊1面／「続々と戦後裏面史 米政府の対日文書」同3面</p> <p>1976.11.16 「ひと 占領期の米国側文書の入手を進める 高橋徳太郎」『朝日新聞』朝刊3面</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【GHQ/SCAP文書収集事業計画に関する国会答弁】</p> <p>1977.3.15 衆議院内閣委員会で質問（中川秀直議員）→宮坂完孝館</p> </div>	<p>1974.8 「日米二つの「日本占領文献目録」－紹介と比較」住谷雄幸 熊田淳美『国立国会図書館月報』第161号 1974年8月</p> <p>1975.5.11 泉昌一が日本国際政治学会春季研究会（津田塾大学で開催）で五百旗頭真氏からGHQ/SCAP文書収集について相談される</p> <p>1976.7.26～10.7 熊田淳美が在外研究員として欧米出張 ワシントンDC滞在中（8.16～10.4）に米国国立公文書館所蔵GHQ/SCAP文書を調査する</p> <p>1977.4 「米国国立公文書館所蔵の日本占領関係文書について」熊田淳美『国立国会図書館月報』第193号 1977年4月</p>

館外の動き	館内の動き
<p>長が一括収集の方向で検討中と答弁</p> <p>1977.4.13 参議院予算委員会第二分科会で質問（内藤功議員）→宮坂館長がマイクロフィルム化して収集すると答弁</p> <p>1977.11.16 衆議院外務委員会で質問（寺前巖議員）→岸田實館長が米国国立公文書館との間で次年度から収集開始することで合意が成立したと答弁</p>	<p>1977.4.12～5.13 泉昌一が米国出張マッカーサー記念シンポジウム（4.14～4.15 ヴァージニア州ノーフォーク）に参加後、米国国立公文書館側と収集の具体的方法について調整する</p> <p>1977.4.21 米国国立公文書館とGHQ/SCAP民政局（GS）文書の目録作成とマイクロフィルムによる複写について協定を締結</p> <p>1977. 昭和53年（1978年）度の当館予算に「米国の日本占領関係資料の収集（特殊文書関係資料整備費・特殊文書調査収集旅費）」が新規計上される（36,561,000円）</p> <p>1978.3 「メリーランド大学マッケルデン図書館東亜図書部所蔵連合日本占領期の刊行物と未刊行資料」フランク・ジョセフ・シュルマン『国立国会図書館月報』第204号 1978年3月</p> <p>1978.5.27～ 熊田淳美、星健一 ワシントンDCに出張して収集事業を開始 熊田は帰国（6.28）し、星はそのまま初代駐在員となる</p>

館外の動き	館内の動き
	<p>1979.4.16 現代政治史資料室でGHQ/SCAP民政局文書（GS）の一部をマイクロフィッシュで利用提供開始</p> <p>1981.4.1 国立国会図書館ワシントン事務所開設（初代所長：星健一）</p> <p>1981.4 千代正明が駐在員になる（星は帰国）</p> <p>1984.4 枝松栄が駐在員になる（千代は帰国）</p> <p>1986.4 小川元が駐在員になる（枝松は帰国）</p>

* 表中のゴシックの人名：本誌特集での講師。